

12 { 12月に予定されているセンターのイベント情報 }
 Dec { や、その他のお知らせについてご案内します。 }

『冬の野鳥観察会』のお知らせ

漫湖もすっかり秋の気配。もうすぐ沖縄に短い冬がやってきます。

この時期、はるか遠い北国から長い旅を経て漫湖に渡ってくる冬鳥たち。

その中心となるシギ・チドリ仲間をみんなで観察してみよう。

[講師] 高原建二さん

[日時] 2012年12月22日(土) 10:00-12:00

[定員] 20名

[参加費] ¥100(※保険料として)

[対象] 小学生以上 (※低学年は保護者同伴)

[持ち物] 防寒具、飲み物、筆記用具 (※双眼鏡、図鑑等は貸し出します。)

[お問い合わせ]

漫湖水鳥・湿地センター ☎ 098-840-5121

今年も「国場川水あしび」が開催されます。

漫湖の大掃除イベント「国場川水あしび」が今年もやってきます。当日は、ゴミ拾いのほか環境に関する展示ブースや炊き出しも出されます。しかも、今回は名古屋で活動する「劇団シンデレラ」によるミュージカル公演もあります。皆様お誘いあわせのうえ、ぜひご参加下さい。

[日時] 2012年12月8日(土) 9:30~15:00まで

[場所] 漫湖水鳥・湿地センター

[お問い合わせ]

漫湖水鳥・湿地センター ☎ 098-840-5121

Topic :

{ いきものファインダー }
 漫湖の風景 - 13



2つの台風が去った、その後…。

9月下旬、立て続けにやってきた2つの台風は、漫湖周辺の木々をすっかりと寂しい姿に変えてしまいました。今年は8月といい、本当に台風の多い当たり年でした。その台風の影響がようやく落ち着いた10月の半ば、センター裏手のシマグワは、細く伸びた枝の節々から新芽の若緑が顔を出しはじめ、とても生き活きと感じられました。

真冬でも青々と葉をつけた常緑樹が目立つ沖縄では、落葉で四季を感じる感覚はあまり無いように感じます。しかし、台風が去ったその後の光景は、感覚だけが一瞬、場所と季節を通り越し、以前研修で訪れた山梨県は清里の山で春先に見た、寒い冬を耐え抜き一斉に芽吹くその木々を見ているかのような、妙におもしろい錯覚を覚えました。

泥んこになって、 干潟を体感する。

10月、秋休みとマングローブ管理用木道の延長記念にあわせて、センターでは漫湖の泥にたっぷり触れる、とっておきの二つの体験を企画しました。一つは「地球の鉄を探そう」です。これは、保全事業で伐採されたマングローブと、泥に含まれる鉄成分で泥染めを行う“純漫湖産”の染め物をつくるワークショップです。不純物を取り除き、水で溶かした泥はとても滑らかで、くせになる気持ちよさでした。はじめて触るこの泥の感触と出来あがった染め物が、参加者のイメージの中にあつた漫湖の泥を、少しでもポジティブな印象に変えてくれる気がしました。みんなで作った染め物は、センターの受付にしばらく展示していますので、センターにお越しの際にはぜひご覧ください。ひょっとしたら、あなたのイメージも変わるかもしれません。



もう一つは「マングローブ探検隊」。その名の通り、マングローブ林内を泥んこになりながら探検するイベントです。日頃滅多に入ることのできないマングローブ林内での探検は、都会のど真ん中にいることを忘れ、こどもはもちろん大人まで童心に返ってしまうような、まさに冒険に満ちた時間になりました。みんな泥んこになりながら、慣れない泥干潟の上を突き進んでいく探検隊。その先々で、マングローブの切株で休憩したり、ロープ渡りをしたり、楽しい体験があるのと同時に、林内に山積するペットボトルのゴミの山や、マングローブを管理する意義など、漫湖が抱える問題についてももしっかり学習しました。漫湖の“泥”をテーマにした今回の二つのイベント、また来年もやりたいと思います。



■ 2012.10/1 — 2012.10/31

{ 漫湖で確認された野鳥 …………… 計 47 種 }

漫湖 寄鳥見鳥

漫湖で確認された鳥類一覧

10/4



- | | |
|---------------|---------------|
| 1. アマサギ | 26. キアシシギ |
| 2. ダイサギ | 27. イソシギ |
| 3. チウサギ | 28. ソリハシシギ |
| 4. コサギ | 29. オグロシギ |
| 5. アオサギ | 30. ダイシャクシギ |
| 6. クロツラヘラサギ | 31. チウシャクシギ |
| 7. ナベコウ (初記録) | 32. クロハラアジサシ |
| 8. ミサゴ | 33. キジバト |
| 9. ツミ | 34. カワセミ |
| 10. サシバ | 35. ツバメ |
| 11. ハヤブサ | 36. リュウキュウツバメ |
| 12. バン | 37. ツメナガセキレイ |
| 13. オオバン | 38. キセキレイ |
| 14. コチドリ | 39. ハクセキレイ |
| 15. シロチドリ | 40. シロガシラ |
| 16. メダイチドリ | 41. ヒヨドリ |
| 17. ムナグロ | 42. イソヒヨドリ |
| 18. ダイゼン | 43. シジュウカラ |
| 19. トウネン | 44. メジロ |
| 20. ヒバリシギ | 45. ハシブトガラス |
| 21. ハマシギ | 46. ドバト |
| 22. キリアイ | 47. シマキンバラ |
| 23. アカアシシギ | 48. |
| 24. コアオアシシギ | 49. |
| 25. アオアシシギ | 50. |

K96の元気な姿。

10月に入り、徐々に渡り鳥でにぎわい始めた漫湖。すっかり冬羽に衣替えしたアカシシギやキアシシギは、餌にするカニと一生懸命格闘中。そんなシギたちに交じってもう1羽、一生懸命エサを探しているのは、あの K96 のリングを付けたクロツラヘラサギだ。水中に嘴を入れ、首を左右に振りながらエサを探すクロツラヘラサギ。時折、何か捕れたのか顔を上げては嘴をパクパクさせている。とても元気そう。ただ、大きな体とその忙しい動きに、見ているこっちが心配になってしまう。ちゃんと食べているだろうか？

※この観察記録は、毎月実施されている鳥獣保護区の定点カウントの記録と、センターでの観察記録を基にまとめたものです。